

論これ等の統計に現われたものが眞の數とは思われないが累年の比較をすることは差支えなからうと考える。致命率の低下は著しい。この原因は1) 抗生物質の使用, 2) 赤痢の輕症化, 3) 患者の早期受診などが影響していると考えられる。

5) 豫防対策

最後に豫防対策であるが、厚生省は群馬縣と協力し、群馬縣をモデル縣として赤痢豫防対策を昨

年以來やつてきた。又本年春に到つて福島縣を之に追加して目下實施中である。又新潟縣は徹底的保菌者検査を中心として赤痢対策を實施しているこれ等の成果の分析については科學的検討を十分加えなければ批判はできないが、群馬縣に於ては死亡率から見れば効果は十分あつたように思われるが詳細は他日報告する機会があると思う。

第4表 昭和26年は9月22日現在

		患 者			死 亡 率			致 命 率		
		昭24	25	26	昭24	25	26	昭24	25	26
茨 城		50.8	75.4	102.9	26.3	30.4	27.3	51.88	40.12	26.52
栃 木		38.0	109.1	150.3	19.2	32.9	28.6	50.58	29.86	19.03
群 馬		90.9	190.1	72.6	24.3	37.3	20.5	26.75	19.79	28.28
埼 玉		81.9	190.6	184.8	26.3	52.7	34.6	32.14	27.72	18.75
全 國		29.1	59.7	82.7	9.5	12.7	11.2	31.65	21.33	13.53

尚群馬縣の表面上の致命率が非常に上昇しているように見えるが26年においては疑似患者が非常に多く倍増しており、防疫措置上ゆるくなつたものではない。

公衆衛生 第10巻 總目次

〔グラビヤ〕

近最の改良便所	10—1
尿尿分離處理, 模範的な堆肥小屋	10—1
水島 治夫... 兒 玉 威...	10—1
ロックフェラー財團國際保健部	10—2
熱帯地區公衆衛生研究所・俗稱ドイツ鼠	10—3

〔主 張〕

群馬縣の赤痢対策について	10—1
行政機構改革と公衆衛生行政	10—2
非醫師の診療と今後の問題	10—3
高 橋 明...	10—3
今後の行政改革	10—4
野 津 謙...	10—4
厚生省の衛生教育に希望する	10—5
医療と迷信	10—6
笠 松 章...	10—6

〔總 説〕

フロイド學說の歴史的展望	10—1
縣田 克躬...	10—1
精神衛生法の解説	10—1
津田 信夫...	10—1
赤痢菌の國際分類について	10—1
福見 秀雄...	10—1
赤痢將來發生數の豫測	10—1
平山 雄 他...	10—1

赤痢の菌型を論ず	白井竹次郎... 10—1
日本住血吸虫病	杉 浦 三 郎... 10—2
恙虫病の疫學における最近の知見	佐 々 學... 10—2
フィラリア症について	林 滋 生... 10—2
東京の蠅	加 納 六 郎... 10—2
學校における保健體育の缺陷と是正方策	川 畑 愛 義... 10—2
幻燈教育について	宮 坂 忠 夫... 10—2
急性灰白髓炎の疫學	甲 野 禮 作... 10—3
1950年發生情況より見た世界に於ける	急性灰白髓炎
後 藤 正 宏... 10—3	
手指の傳染簡易判定法(細菌手型)	柳 澤 文 德... 10—3
那 須 昭 夫...	
Chloromycetin に關する最近の知見	松 田 心 一... 10—3
アメリカ公衆衛生協會の活動	齋 藤 潔... 10—4
佐 藤 德 郎...	
肢體不自由兒の問題	小 池 文 英... 10—4
結核の管理	千 葉 保 之... 10—4

性病蔓延の機序	宮入 正人... 10— 4	公衆浴場の汚染度及び配置の基準に就て	中村廣夫,他... 10— 4
最近のスポーツ生理學の研究	猪飼 道夫... 10— 5	カルデオライビン抗原による	
スポーツと健康管理	齋藤 一男... 10— 5	妊婦梅毒血清反應の成績	依田 源次... 10— 5
優生結婚は何故必要か	川上 光雄... 10— 5	蠅撲滅に對する一方法	不破佐和子... 10— 5
結核豫防を主としたる集團檢診と		工場作業疲勞と尿表面張力との關係	
採用時體格検査	富田 信雄... 10— 5		鳥取 秋彦... 10— 5
榮養學の領域に於けるビタミンBに		大根の腸内細菌吸收について	寺 門 賀... 10— 5
關する研究	西尾 雅七... 10— 5	石川縣門前町における昭和菌赤痢の流行	伊藤利一,他... 10— 5
本學に於ける衛生學及び		我が國農村の食生活改善についての一考察	玉 城 仁... 10— 5
公衆衛生學教育カリキュラム	堀内 一彌... 10— 5	所謂異型猩紅熱の疫學的統計的觀察	
DDT と BHC の特性	鈴木 猛... 10— 5		澤田 収,他... 10— 5
我が保健所の年間計畫について	伊達 富久... 10— 5	麻疹及び百日咳の疫學的調査	小宮山新一,他... 10— 5
珪肺概説	山本 幹夫... 10— 6	B C G 再接種の時期に關する研究	今 井 清... 10— 6
食品中の鐵含有量に就て	阿部 克己... 10— 6	梅毒抗原の血清學的反應に關する考察 (第1報)	
防腐剤研究の新方面	相磯 和喜... 10— 6		増井 正幹... 10— 6
〔研究報告〕			
學童の體位と地域性	柳澤利喜雄,他... 10— 1	空氣中有害物超限濃度の簡易測定法	
愛知縣下のいわゆる「水田性皮膚炎」調査とその		(7) マンガン及びニトリル類	佐藤徳郎,他... 10— 6
原因と思われるセルカリアの形態および習性	小宮義孝,他... 10— 1	カルバミジンによる赤痢アメーバ嚢	
ガーゼマスクの飛沫傳染防止に對する		子保有の集團治療の經驗	野口 政輝... 10— 6
效果について	豊川行平,他... 10— 1	〔醫藥隨想〕	
公衆衛生監視の一手段としての蠅格子の應用	加納 六郎... 10— 1	公衆衛生の實未だしか	土屋 忠良... 10— 1
尿管處理の衛生學的研究	川畑 愛義... 10— 2	アメリカ便り	若松 榮一... 10— 2
學校井戸水の検査成績	柳澤 文徳... 10— 2	農村醫學研究所設置の必要性	松浦 利次... 10— 2
日本住血吸虫病に關する研究 (1)	田中 利男... 10— 2	親の悲哀	宮川 米次... 10— 4
豐中保健所における口腔衛生教育	片山 恒夫... 10— 2	副腎皮質ホルモンとそのノーベル賞受賞	
虫卵保有高率の一農村小學校の調査考察	吉村 一應... 10— 2		松岡 脩吉... 10— 4
市販薬用石鹼の石炭酸係數	八田貞義,他... 10— 3	公衆衛生問題としての癌	松岡 脩吉... 10— 5
秋田縣下農村における Vitamin の缺乏狀況	松岡脩吉,他... 10— 3	日本人と迷信	叶澤 清介... 10— 6
受胎調節の現状	小宮山新一,他... 10— 3	〔統計の頁〕	
農繁期勞働の疲勞について	鈴木 健二... 10— 3	1950年の人口動態統計概要	河田 竹二... 10— 1
尿尿ならびに塵芥の堆肥はつこうに關する研究	川畑愛義,他... 10— 3	英國の疾病調査	曾田 長宗... 10— 3
福岡縣山門三池兩郡におけるトラコーマの蔓		〔時 評〕	
延状態と失明者調査	牧野 四郎... 10— 3	社會保險の統合問題	谷口彌三郎... 10— 1
人系 A' 型インフルエンザ・ウイルスによる		急性灰白脊髄症と法定傳染病	豊川 行平... 10— 1
豚の實驗成績について	甲野禮作,他... 10— 4	(WHO 第4回總會に出席して)	曾田 長宗... 10— 2
日本住血吸虫に關する研究 II	横川宗雄,他... 10— 4	性病の衛生教育	小原 菊夫... 10— 3
P-nitrophenyl phosphate を使用する牛乳		その後の勞働衛生	勝木 新次... 10— 4
phosphatase の定量及び臨地試験法	山下哲生,他... 10— 4	結核醫療費公費負擔制度	聖 成 稔... 10— 5
		本年の赤痢を觀て	館林 宣夫... 10— 6
		〔座談會〕	
		座談會 十二指腸虫の全村驅除	小宮,柳澤他... 10— 1
		今後の厚生行政	楠本正康,他... 10— 6